



特 文庫10
7331

西遊文庫



九日以前迄の秋中往來役等
下州の物又一作十日夕刻アメリカ船上船
分洋行の付録は日船渡航ノ入付役
係高船高由々ノ京居毎因
口之高月十日迄の異國船
公儀分所部東來の諸
可位付打放し役年
完悟女

硬帳係より居り又大筒打物メハ初ト六十三年卜位迄
拾六度ハ内ニ平打事ハ白昼ナリトハ何モ打物事如
布中殊ニ兩凡ハ右ノ事モ進ニ時ハ任居ル事ハ
時左ハ時ニ事地ニ混雜ナリトハ何モ打物事如
首相ハ不殘水片甘豊洲ト一夜ハ階道具ニ星移ニ在
善送ハ洲ニ所ハ及事婦古事相事教ハ一層ハ長クハ
浩及事ハ洲事用ハ京斗ハ後ハ指ハ位園中ハ残
女招ハ教合ハ一トハ何モ打物事如ハ早馬ハ分

事ハ進下地ハ分事ハ人教ハ向海ハ是是ハ何モ打物事如
京都ハ分下ハ一トハ何モ打物事如ハ人地ハ移人地ハ後
具是ハ水手船事ハ一トハ何モ打物事如ハ京王招ハ是ハ分
ハ此水ハ分ハ平ハ分ハ何モ打物事如ハ高移ハ是ハ分
上河ハ進事ハ一トハ何モ打物事如ハ進打ハ是ハ分
者事ハ進事ハ一トハ何モ打物事如ハ分ハ一トハ何モ打物事如
昨夕ハ三回屋進ハ一トハ何モ打物事如ハ長府ハ早打ハ是ハ分
大橋ハ分ハ分ハ一トハ何モ打物事如ハ京中ハ落氷ハ踏

山崎色中川其々々遊河の流人の着るもの成座山物く不そり
し年くすくす聖山老境々々其後流くすつ九逢年と流く
異形くす流風又流流くす其後今形くす大夏比日物て流
めりりくすのくす大なる流は比年國中一羊咽事流
日流流河くす其々々遊河のくすくす片付流流方と
今くすくす用茶碗箸大くす其後くす外くす其後山是くす而流
市中くす景くす高川くす何くす其後市中一今くす其後大
流報流山其後流くす叶くす其後流くす以流流山其後
今くすくす用茶碗箸大くす其後くす外くす其後山是くす而流

流身くす其後流くす年くす市河流くす其後山其後流くす其後
今くすくす用茶碗箸大くす其後くす外くす其後山是くす而流
今くすくす用茶碗箸大くす其後くす外くす其後山是くす而流
今くすくす用茶碗箸大くす其後くす外くす其後山是くす而流

今くすくす用茶碗箸大くす其後くす外くす其後山是くす而流
今くすくす用茶碗箸大くす其後くす外くす其後山是くす而流
今くすくす用茶碗箸大くす其後くす外くす其後山是くす而流
今くすくす用茶碗箸大くす其後くす外くす其後山是くす而流

此交昂時、入海江下、因番所、目的異船、一發放、以交
目的未達のれり、石版と高くと、船體をうつり、或は又、以
異船、長分、先節、目的、一発放、し、如、その、水、毫、の、一、揚、字
門、高、り、浮、神、殿、し、新、口、高、り、玉、こ、り、これ、神、宮、司、し
り、石版、留、り、時、は、至、それ、事、神、宮、司、は、往、人、れ、と、さ
裏、者、打、通、一、節、死、仕、の、又、其、以、異、船、分、捕、し、賊、席、居、少、路、し、り
而、と、目的、放、し、如、前、日、所、在、家、の、別、打、沖、し、こ、り、出、て
茶、居、形、去、席、し、り、同、心、入、是、分、其、玉、階、居、中、打、通、り、又、こ、階、居

打通、其、家、の、裏、又、窓、を、方、し、こ、り、玉、こ、り、付、玉、目、方、拾、り、其
玉、目、方、一、件、出、し、もの、其、人、を、持、出、し、如、由、は、在、り

但、異、船、分、放、し、玉、取、る、目的、高、り、し、り、割、し、り、振、り、
仕、裁、し、玉、中、し、少、玉、數、多、入、り、し、り、山、玉、目、方、在、り、
ハ、玉、目、方、拾、り、拾、り、其、目、の、到、り、浮、接、し、玉、を、取、り

割、し、玉、の、事

得、り、如、油、居、七、無、切、個、居、玉、を、多、の、り、大、同、居、異、船、分、取、家
打、裁、し、交、昂、中、の、火、火、仕、裁、し、り、玉、を、り、向、心、火、取、り、火、事、

本意の如くしてはるべし

一 長川の軍艦隊は、敵の陣に、必殺向に、合、洋船は、他一
き、船の大砲は、擬、敵を、大砲に、擬、敵、其、右、合、向、向、
合、中、軍、艦、隊、向、向、軍、艦、目的、軍、艦、大、砲、敵、
打、敵、二、艘、大、軍、至、向、向、擬、敵、向、向、
海中、沈、沈、播、中、向、向、向、向、向、向、
六、丁、敵、向、向、向、向、向、向、向、向、
大、砲、向、向、向、向、向、向、向、向、

余りも、敵、向、向、向、向、向、向、向、向、
海中、沈、沈、播、中、向、向、向、向、向、向、
向、向、向、向、向、向、向、向、

一 長川、向、向、向、向、向、向、向、向、
向、向、向、向、向、向、向、向、
長、既、向、向、向、向、向、向、向、向、
向、向、向、向、向、向、向、向、

一 長崎軍船を艘 兼 軍船を艘 古流 といふ 異船 あり
無怪し 俗に 洋中 船 といふ 凡 口 百人 あり とも 大 といふ
旗 と 建 上 方 と 向 出 帆 也

一 六 月 日 傳 某 西 軍 船 以 艘 といふ あり 豊 前 一 小 倉
限 三 日 傳 といふ こと 斗 中 傳 我 船 長 崎 支 長 崎
下 の 関 の 間 前 田 浦 といふ あり とい 豊 前 船 目的
大 砲 四 発 あり とい 如 白 雲 船 二 艘 あり とい 數 隻
あり 一 前 田 船 あり とい 古 船 とい とい とい とい

一 前 田 船 あり とい 大 砲 一 發 あり とい 異 船 とい 曰 曰
あり とい 船 あり とい とい とい とい とい とい とい
大 砲 あり とい 船 あり とい 船 あり とい 船 あり とい 船 あり とい
船 あり とい 船 あり とい 船 あり とい 船 あり とい 船 あり とい
大 砲 あり とい 船 あり とい 船 あり とい 船 あり とい 船 あり とい
一 打 とい 船 あり とい 船 あり とい 船 あり とい 船 あり とい
船 あり とい 船 あり とい 船 あり とい 船 あり とい 船 あり とい

其と見候事人斗りし西軍人の女と云ふ者推入斗り
其勢も甚く後迄言事人の倒し其不意の事なれ
及い異人四人死候事去斗り其田圃白銀に
付り由致候事斗り其美百丸の人の打殺し白銀
此入目も極未打毀し候事及此防具も其船に
上りし向出候事

但其人千人斗り其言事人の女も人
其付りし極未の事

一 下り関帝中しものつれと云ふ事其家候事片付
其い船積りし其甲の打殺し其出候事其言事
小倉右軍の臨海と云ふ事其言事其言事其言事
其言事

千八百六十三年算八月廿日 我七月
八日當
横濱贈新芝郎

ふ列兵軍艦カロモラント書状を以て常陸へ送せり
右列兵軍艦より此の次の新芝郎を携来せり
去子土曜日分十二時軍艦鹿嶋の港に碇泊ありて
大風吹く日人を取り扱ふふ事ありて次の人へ報告す

カビタニ館 ジヨスリント殿
コニマント館 内井ルモット殿

右二人一は浮丸まで打殺せり

自負死人数六十人

船に多少損傷

英艦常港に來り
近手あり

書状より

長崎に在る船隻共大眼目を蒙り

十五日我々朝九時十二時島崎より打出は水師提督より

命令を乃ち船を燒く三艘日本艦隊を拾はぬなり

エーゲント

エーゲント

エーゲント

右日本船を共殺せりて船中の儀小艇派をもち

島崎より打ち奉りたるを以て軍艦隊と上船島崎より

六百乃至六百ヤルトを放りて一列を連せり

島崎より射る事と共小艇を殊大に射りて其内

二十艘又七十艘より十イ二千の破列を深三千乃至

二十四斤の突撃し

カヒーケン及びカニンメントル一箇の午後九時五十分

甲板の橋より一深を打殺せり十イ二千の破列を深

甲夜の中央より破裂あり七人昇死あり又七人

ロイヤルカレットがヨフスきも有

天守をよしく西降り風降る向幸吹く午後三時火座中に
此り

昇三時二十分小銃炮と止む

升七時十五分小銃ボート銃ハワアツリ

五隻の大船一琉球船を焼く

升九時二十分小造作場及び山崎家焼幕る府造作場

高家よ打の幕るより終夜

升八時十六日我朝午後三時二十分小銃と上幕幕幕と

焚子、港口小公の幕る尾掃小破裂及び山崎と折りく

答るもの只二五名焼る也

碇泊する所を焼掃く如の遊遊せ雨く所中最高
焼るあり

死人、幕の目録

ユライリス

死人

二十一人

幕内一人死

パール 七人 死ぬ一人 上方

アルゴス 二人 負

ユツケルト 一人 死ぬ二人 負 内方一等ロイヤルナント
外方一人を死す

ベルエウス 死一人 負二人

ライスホース 二人 負

フアバーウク 三

